

3 汗かき阿弥陀

伝承地：西原2-1-10 (一向寺)

話者：24・28 参考書籍：1・2・4・9・18・22



(汗かき阿弥陀)

応永12年(1404)4月2日 宇都宮12代城主藤原(宇都宮)満綱の銘がある仏像で高さ約1m、発願帰依の文字が衣全体にわたって刻まれている。この銅造阿弥陀如来坐像(国指定重要文化財)は、宇都宮満綱が願主となって、下河原長楽寺の本尊として鑄造された。長楽寺は、本多正純の時代に城拡張のため西原に移されたが廃寺になり、阿弥陀仏は一向寺の客仏として、今日に至っている。

阿弥陀仏は、万人を極楽浄土へ導く仏様として親しまれているが、この阿弥陀様は世に吉凶異変のある時、その前兆として、身体全体に汗をかくので「汗かき阿弥陀」として、昔から人々の信仰を集めてきた。発汗の記録は次の通りである。

1. 応永30年(1423) 宇都宮氏13代城主持綱が、塩谷郡幸岡で自害する数日前。
2. 天文18年(1549) 宇都宮氏20代城主尚綱、喜連川五月女坂で戦死した前日。(9月26日)
3. 慶長2年(1597) 宇都宮氏が、豊臣秀吉に滅された10月上旬。
4. 元禄11年10月(1698) 宇都宮領内の農民達が、免合(年貢の割合)訴訟のため、城下に集まったその前日。
5. 享保8年(1723) 五十里洪水の前日。
6. 宝暦3年(1753) 宇都宮領の百姓一揆が起こった2日前。
7. 慶応4年(1868) 宇都宮焼失落城(戊辰戦役)の前日、4月19日と4月23日。
8. 明治2年(1869) 材木町大火の前日。
9. 明治27・37年(1894、1904) 日清・日露戦争前。
10. 大正12年(1923) 関東大地震の前日の8月31日。

なお、一向寺には別に次のような話が伝わっている。

「一向寺は一度も火災にあったことがなかったが、戊辰戦争の際には寺のまわりが火におおわれて、一向寺に火の手がかかろうとした時、汗かき阿弥陀の化身が本堂の屋根にまたがり、滝のような汗をかいて火を防いだ。

したがって、この阿弥陀仏は凶年を知らせるだけでなく、火難も打ち払う仏像といえる。

